

スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導

[講義] 第4学年 通年 選択 S S W必修 2単位

《担当者名》 福間 麻紀 m-fukuma@hoku-iryo-u.ac.jp 高野 和美（非）

【概要】

スクールソーシャルワーク実習に取り組むための事前学習と事後学習を行う。事前学習においては、ミクロ・メゾ・マクロの視点から対象者と対象者を取り巻く環境の理解をすすめ、実習課題の設定、実習計画書の作成を行う。

事後学習においては、実習で得られた体験について意味づけし、実践課題の取り組みの結果をあわせて実習報告書としてまとめ、実習報告会で報告する。

【学修目標】

・事前学習

対象となる子どもを理解する（発達課題、問題行動等）。対象となる子どもを取り巻く環境を理解する（家族、学校、地域）。実習機関について理解する（法律、制度、組織、教員、その他職種、関連機関）。実習機関と関連する社会資源を理解する。実習機関における S S W の意義、役割、機能、業務内容について理解する。実習機関における S S W の支援技術について理解する。実習課題の設定と実習計画書の作成を行う。

・事後学習

実習体験の意味づけを行う。実習課題の取り組み結果をまとめる。実習報告書を作成する。実習報告会の準備・報告を行う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション スクールソーシャルワーク実習の意義	実習指導の進め方の説明。 実習課題のたてかた、実習計画書の作成方法、事前学習の内容・方法について説明する。 スクールソーシャルワーク実習の意義について理解する。	福間
2	実習先・実習関連機関の理解 実習先地域の理解	実習先機関の状況、関わる法律、制度、組織、職員、関係機関について調べ、実習施設概要理解レポートを作成し報告する。 実習先地域の状況、子ども家庭支援体制、関わる法律、制度、組織、関係者、関係機関について調べ、実習施設概要理解レポートを作成し報告する。	福間
3	学校（教職員）、子ども、家庭への支援方法	実習先で対象となる、学校（教職員）、子ども、家庭の支援に必要な基礎的知識と支援技術についての理解を確認する。 支援に関係する社会資源（法律、制度、サービス等）を理解する。	福間
4	実習計画書作成指導1	実習課題の明確化と実習計画書を作成する。 実習に向けて、不足している情報や知識について確認し整理する。	福間
5	実習記録 プライバシー保護と守秘義務	ソーシャルワーク実習の記録を基に、実習記録の記載方法を確認する。 守秘義務について理解し、実習場面を想定した事例の検討により、ソーシャルワーカーとしての判断・行動を学ぶ。	福間
6	実習計画書作成指導2	実習課題の明確化と実習計画書を作成する。 実習に向けて、不足している情報や知識について確認し整理する。	福間・高野
7	実習計画書作成指導3	実習課題の明確化と実習計画書を作成する。 実習に向けて、不足している情報や知識について確認し整理する。	福間・高野
8	実習の振り返り	各自の実習体験を共有し（グループワーク）、体験の内容の意味づけを行う。 倫理的ジレンマについて検討する。 実習課題の取り組み内容と結果を共有し（グループワーク）、実習で学んだこと考えたことを各自整理し報	福間・高野

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		告する。	
9	実習報告書作成指導1	実習報告書、実習施設機関概要理解レポートを作成し、内容について指導を受ける。	福間
10	実習課題（個別研究・専門性理解）の振り返り	実習課題（個別研究）について報告し、支援過程・アセスメント・プランニングの取り組みについて共有する。 専門性理解について報告し、スクールソーシャルワーカーの役割・機能について説明できる。	福間
11	実習報告書作成指導2	実習報告書、実習施設機関概要理解レポートを作成し、内容について指導を受ける。	福間
12	実習報告会資料作成指導	実習報告会の資料を作成し、内容について指導を受ける。	福間・高野
13	実習報告会準備1	実習報告会の報告内容を共有し（グループワーク）、報告のテーマ・内容について検討する。	福間・高野
14	実習報告会準備2	実習報告会の準備（リハーサル）を行う。	福間・高野
15	実習報告会	実習体験と成果、課題について報告する。実習指導者・指導教員と報告内容についてディスカッションする。	福間・高野

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

事前学習課題や実習計画書、実習報告書などの提出物（60%）、実習報告会の報告（20%）、参加意欲・態度（20%）

【教科書】

米川和雄編著「スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト」（2010）北大路書房

【参考書】

日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規（2008）

他、必要に応じて提示する。

【備考】

スクールソーシャルワーク教育課程では専門科目群「スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導」に該当する。

教職課程では、「大学が独自に設定する科目」に該当する。

【学修の準備】

- ・実習先を理解するための情報収集、実習で必要とされる知識と技術について理解しておく（予習2時間）。
- ・授業内で取り上げたスクールソーシャルワークの知識や専門用語について参考書等を用いて確認する（復習2時間）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2：福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1：人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3：社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

DP5：多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

【実務経験】

福間麻紀（社会福祉士）、高野和美（社会福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

教育機関におけるスクールソーシャルワーカーとしての実務経験を活かし、実践活動に必要な姿勢や態度、知識、方法等について、実習場面を想定した実践的な教育を行う。